

フレイルを有する高齢心臓外科手術予定患者に対するプレハビリテーションの効果

本学で実施しております以下の研究についてお知らせいたします。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	フレイルを有する高齢心臓外科手術予定患者に対するプレハビリテーションの効果
倫理審査受付番号	第3889号
研究期間	2021年11月実施許可日～2024年 3月31日
研究対象情報の取得期間	下記の期間に心臓血管外科で待機的に冠動脈バイパス術または僧帽弁置換術/形成術を受けた65歳以上のフレイルまたはプレフレイルを有する方 2019年 4月 1日 ~ 2021年 9月30日
研究に用いる試料・情報	カルテ情報
研究概要	（研究目的、意義） 今回の研究では、心臓外科手術予定の患者さんを対象として、手術前に行うリハビリテーション（プレハビリテーション）の有効性と安全性を調べることを目的としています。フレイルを有する高齢心臓外科手術予定患者さんに対するプレハビリテーションは、手術前の身体機能の低下を予防し、フレイルを改善させることが期待できます。さらに、プレハビリテーションの実施によって、術後の身体機能低下の予防、術後合併症発生の減少、術後入院期間を短縮させる可能性があります。 （研究の方法） 2019年4月から2021年9月までの期間において、心臓血管外科で待機的に冠動脈バイパス術または僧帽弁形成術/置換術を受けたフレイルまたはプレフレイルを有する65歳以上の患者さんを対象とします。手術前後の身体機能および術後経過の比較をプレハビリテーション介入を行った患者さんで行います。身体機能評価には、6分間歩行距離と簡易身体能力バッテリー（Short Physical Performance Battery；SPPB）を用い、術後経過には、術後在院日数、術後合併症発生、術後リハビリテーション経過を用います。 （個人情報の取扱い） 収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した（匿名化といいます）上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

本研究に関する
連絡先

兵庫医科大学 リハビリテーション技術部
道免 和久（研究責任者）
本田 陽亮（実務責任者）

TEL |（平日 9：00～17：00） 0798-45-6358
（上記時間以外） 0798-45-6111